

(様式1) 実施報告書

1 応募者情報

(1) 応募者団体情報

団体名	横浜市
-----	-----

(2) 都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

○指定の有無 有・無

○指定の内容

②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

2 事業の概要

(1) 全体概要

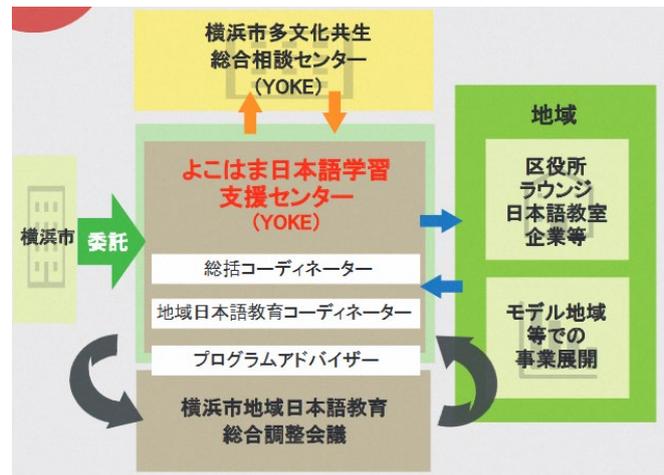
①事業の名称	横浜市域における地域日本語教育の体制づくり推進事業
②目的等	
1 目的 「横浜市国際交流協会（YOKE）を中核とした、こどもから大人までの切れ目のない地域の日本語教育の支援、総合的な推進」	
<ul style="list-style-type: none">・新たな在留資格の創設等により、今後、さらなる外国人の増加が見込まれる中、日本語学習を通じて外国人が生活の場で円滑にコミュニケーションのできる環境を整える。・環境整備にあたっては、横浜市国際交流協会（YOKE）におけるこれまでの取組、および令和3年度までの地域日本語教育の総合的な体制作り推進事業を発展させ、地域日本語教室への支援や、関係機関・団体との有機的な連携の推進を図り、市域の日本語教育を推進する。・日本語教育の推進により、外国人住民の日本語習得の促進を図ることで、外国人が地域で安心して生活し、さらに地域社会で活躍できる、多文化共生のまちづくりの推進にもつなげる。・以上、5か年を通して横浜の地域特性を踏まえた日本語学習を通じ、多文化共生のまちづくりの推進を目指す（「横浜×日本語×多文化共生」）。	

2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像

【現在の状況：図示も可】

令和2年8月に横浜市国際交流協会（YOKE）内に設置した、地域日本語教育の中核的な拠点「よこはま日本語学習支援センター」が中心となり、事業を推進する（図参照）。センターに総括コーディネーターおよび地域日本語教育コーディネーターを配置し、地域において区役所・ラウンジ・日本語教室・企業等との連携やモデル地域での事業展開を進めていく。また推進にあたっては、総合調整会議、プロジェクト推進ワーキンググループでの意見聴取・意見交換、およびプログラムアドバイザーの助言を踏まえつつ総合的な体制づくり推進事業を進める。

推進事業は、横浜市国際交流協会（YOKE）に委託して実施する。YOKEはこれまで市内日本語学習におけるコーディネート等を通じて、地域日本語教室（130以上）とネットワークを構築し、また専門的なノウハウを蓄積してきた。さらに、令和元年度から3年度まで「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」の本市事業を受託した実績を有する。



【構築を目指す体制：図示も可（上記に構築する体制を追記）】

特になし

（2）令和4年度事業の概要

①事業の期間 令和4年4月1日～ 令和5年3月31日（12カ月間）

②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）

（令和2年度）

令和元年度に実施した「地域日本語教育の実態調査」および「横浜市域における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのアクションプラン」の策定に基づき事業を行った。「よこはま日本語学習支援センター」の設置をはじめとする、横浜市域における地域日本語教育の体制づくりに取り組んだ。また、企業従業員向け日本語教室、ICT活用促進の講習会など、新たなニーズに合わせた事業を展開した。

（令和3年度）

モデル地域3区を中心に、関係機関・団体とのより一層の連携促進を図りつつ、地域日本語教室への支援の充実、モデル地域での関係団体のネットワーク構築の強化、新たなニーズに対応する企業と連携したプログラムの実施などをさらに展開した。オンライン初期日本語教室のカリキュラムを検討、実施した。また、情報冊子やホームページの充実など、広報も強化した。

③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）

（成果）

- ・総合的な体制作り推進のための枠組みをつくり、なかでも 5 つの重点取組（よこはま日本語学習支援センターの設置・充実／地域日本語教育推進モデル地域での展開／産業界等と連携した、新たな日本語教室の取組／ICT の活用促進／教室等の活動継続のための連携・支援に沿った）事業展開を行うことができた。
- ・「よこはま日本語学習支援センター」の設置、総合調整会議やプロジェクト推進ワーキンググループの設置など、体制作りの基盤を整えた。
- ・情報冊子発行や web サイトの構築、教室データベースの更新などにより、情報を受発信する環境が整ってきた。
- ・モデル地域での展開、また、各事業を通じて関係機関・団体等との連携が進んだ。
- ・企業従業員、親子、ICT 活用など新たな分野の日本語教育に取り組んだ。

（課題）

- ・よこはま日本語学習支援センターの機能、特に、相談対応、情報提供機能を充実させること。また、センターを中心とする本取組の周知にさらなる工夫が必要である。
- ・企業との連携関係の構築に難しさを感じている。

④令和 4 年度の目標

- ・外国人住民に身近な存在である「地域日本語教室」を横浜市域の地域日本語教育推進のベースとして、教室間のネットワーキングを通して日本語指導力の強化や教室の活動内容の改善等、各教室の底上げが図られるような仕組みづくりを行う。
- ・「横浜市国際交流協会 (YOKE)」は地域日本語教育の中核的な役割を担い、上記ネットワーク構築の支援、日本語学習支援者の発掘や育成、新たなニーズに応える日本語教室の開催などの実施を通し、地域における日本語教育を支援・推進する。
- ・市域日本語教育の推進に係る関係機関・団体等の有機的な連携の促進が図られる。

⑤令和 4 年度の主な取組内容

地域日本語教育の中核的な拠点「よこはま日本語学習支援センター」を基盤とし、引き続き関係機関・団体（市・区役所、地域日本語教室、NPO 法人、日本語教育機関、企業、大学、社会福祉協議会、市民活動支援センターや社会福祉協議会等のボランティアセンター、当事者組織等）との連携促進を図りつつ、地域日本語教室への支援の充実、モデル地域での関係団体のネットワーク構築の強化、新たなニーズに対応する企業と連携したプログラムの検討実施などを展開する。

全体の枠組みは以下のとおり。

【基盤】 柱 1：体制作り推進のための基盤の整備

【取組】 柱 2：市域における地域日本語教育の推進、連携

柱 3：研修、地域日本語教育・支援

実施内容の概要について

令和4年度事業は、3本の柱、11の取組（うち5つの重点取組）で構成し、事業を実施した。

（右概要図参照）

（重点A）よこはま日本語学習支援センターの充実

（重点B）地域日本語教育推進モデル地域での展開

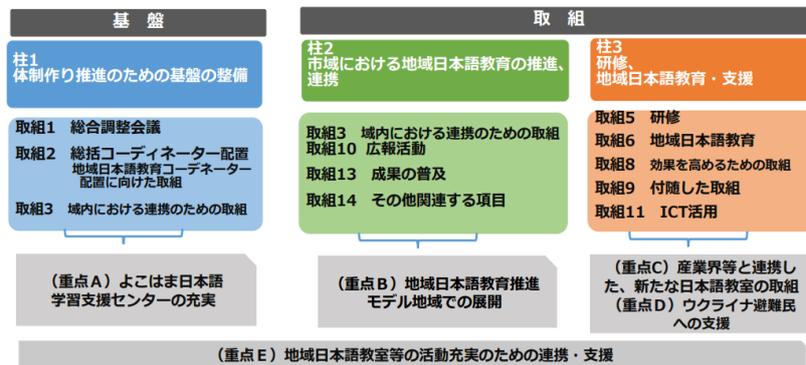
（重点C）産業界等と連携した、新たな日本語教室の取組

（重点D）ウクライナ避難民への支援

（重点E）地域日本語教室等の活動充実のための連携・支援

■事業の概要（3本の柱・11の取組・5つの重点取組）

3本の柱、11の取組により、事業を実施します。また、5つの重点取組を設定します。



（注）「取組〇（数字）」は、文化庁設定の取組番号に対応しており、4・7・12は該当なし。

■5つの重点取組説明

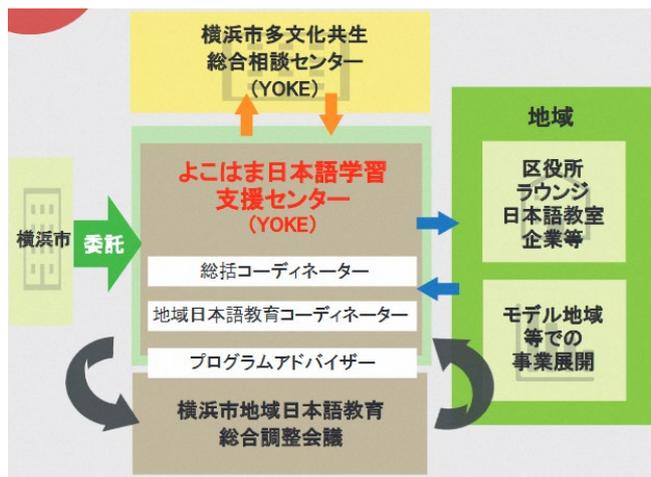
- （重点A） 地域日本語教育の支援拠点の機能を充実させ、広報機能を強化します。
- （重点B） モデル地域（区）と連携し日本語教室支援や関連団体とのネットワーク構築を進めます。
- （重点C） 企業従業員に向けた職場や地域での「生活に必要な日本語教室」等を実施します。
- （重点D） 日本語支援を通じ、今後の地域社会参加や生活の見通しをたてることにつなげます。
- （重点E） 情報交換の場の設定やオンラインでの活動支援等、地域日本語教室をサポートします。

3 事業の実施体制

（1）実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。）

令和2年8月に横浜市国際交流協会（YOKE）内に設置した、地域日本語教育の中核的な拠点「よこはま日本語学習支援センター」が中心となり、事業を推進する（図参照）。センターに総括コーディネーターおよび地域日本語教育コーディネーターを配置し、地域において区役所・ラウンジ・日本語教室・企業等との連携やモデル地域での事業展開を進めていく。また推進にあたっては、総合調整会議、プロジェクト推進ワーキンググループでの意見聴取・意見交換、およびプログラムアドバイザーの助言を踏まえつつ総合的な体制づくり推進事業を進める。

推進事業は、横浜市国際交流協会（YOKE）に委託して実施する。YOKEはこれまで市内日本語学習におけるコーディネート等を通じて、地域日本語教室（130以上）とネットワークを構築し、また専門的なノウハウを蓄積してきた。また、令和元年度から3年度まで「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」の本市事業を受託した実績を有する。



《事業の中核メンバー》				
	氏名	所属	職名	役割
1	木村 博之	横浜市国際交流協会	多文化共生推進課長	統括責任者
2	門 美由紀	横浜市国際交流協会	多文化共生推進課担当課長	事務局
3	藤井 美香	横浜市国際交流協会	多文化共生推進課シニアコーディネーター	事務局

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

<ul style="list-style-type: none"> ・地域日本語教育推進モデル地域3区（磯子区・緑区・瀬谷区）では、各区役所を中心に、区内の日本語教室、国際交流団体等と連携して事業を実施した。地域福祉や子育て支援に係る団体も含めた情報交換会の新規設置につながった区もあった。 ・外国につながる就学前の子どもと親の支援に関し、子育て支援団体が取組や課題を共有する、情報交換会を新たに行った。また、西区において、地域子育て支援拠点と連携した親子日本語教室を開催した。 ・企業従業員向け日本語教室の実施、企業向け異文化間コミュニケーション講座の実施にあたっては、業界団体からの情報提供や広報協力を得た。 ・ウクライナ避難民支援では、自治会や区役所等の協力を得、中区の団地集会所を利用して、日本語教室を行った。
--

4 令和4年度の実施内容

(1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	嶽肩 志江	横浜国立大学	非常勤講師	地域日本語教育プログラムアドバイザー
2	岩田 一成	聖心女子大学	教授	地域日本語教育
3	安田 道静	横浜市教育委員会	横浜市日本語講師	日本語教育・外国人当事者
4	丸山 伊津紀	認定NPO法人地球学校	理事長	NPO（地域日本語教室）
5	細谷 早里	関東学院大学	教授	多文化共生
6	林田 育美	都筑多文化・青少年交流プラザ	館長	NPO（多文化共生・青少年）
7	長岡 博司	翰林日本語学院	校長	日本語学校
8	増尾 和行	たちばな会特別養護老人ホーム天王森の郷	総務部総務課課長	企業等
9	バンダリ マニサ	IT企業勤務		外国人当事者
10	金子 真澄	NPO法人まんま	理事長	NPO（子育て支援）

11	吉澤 百合子	横浜市中区総務部区政推進課	企画調整係長	オブザーバー
12	土屋 隆史	横浜市教育委員会事務局 小中学校企画課	主任指導主事	オブザーバー
13	松本 貴之	横浜市国際局政策総務課	担当係長	オブザーバー
②実施結果				
実施回数	3回			
実施スケジュール	6月13日 推進体制および事業の方向性について、事業内容について 11月25日 事業の実施状況について 3月3日 事業の実施状況及び振り返り、今後の方向性について			
主な検討項目	<ul style="list-style-type: none"> ・推進体制および事業の方向性、事業内容についての協議 ・各分野における地域日本語教育に係る情報・意見交換 ・(仮称)よこはま日本語サポーター制度の構築について ・事業の振り返り、及び今後の方向性についての協議 <p>その他、総合調整会議の分科会としてプロジェクト推進ワーキンググループを開催した。(1月19日開催。テーマ：(仮称)よこはま日本語サポーター制度について) また、総合調整会議委員からプログラムアドバイザーを配置し、外部有識者の立場からの助言や情報提供等を受けた。</p>			
(取組②-1) 総括コーディネーターの配置				
<p>横浜の地域日本語教育や多文化共生に精通する、横浜市国際交流協会職員(1名)を配置した。主な業務内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合調整会議および、プロジェクト推進ワーキンググループの委員・メンバーとの連絡調整 ・プログラムアドバイザーとの連絡調整 ・事業推進のためのスタッフ間連携推進 ・事業推進にあたっての関連機関・組織との関係づくり ・モデル地域事業における区役所、地域日本語教室等との連絡、関係づくり、事業推進 ・地域日本語教室の活動状況把握とネットワーキング促進 				
(取組②-2) 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組				
地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】				
地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【(○)】				
(1) 地域日本語コーディネーターの配置				
<p>地域日本語教育コーディネーター3名(うち、1名は外国人当事者)を、横浜市国際交流協会に配置し、担当モデル地域事業を中心に、本事業における各取組の企画・運営・コーディネートを行った。また、総合調整会議やプロジェクト推進ワーキンググループ、文化庁会議等に参加し、外部有識者等との情報交換を行った。1名が文化庁「地域日本語教育コーディネーター研修」を受講した。</p>				
(2) 地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援				
<p>国際交流ラウンジの日本語学習支援担当者を対象とした連絡会や、グループ運営・ボランティアマネジメントをテーマとした地域日本語教室運営者向け研修会を開催した。また、モデル地域において地域日本語教室や国際交流ラウンジを巻き込んだ事業の企画運営を行うとともに、相談対応や各事業を通じて、支援者との対話を行う機会とした。文化庁「地域日本語教育コーディネーター研修」などの外部研修への参加を促した。</p>				

(取組②-3) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置
取組なし
【重点項目】
(取組③) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組
(3-1) よこはま日本語学習支援センターの運営【重点】
【時期】 4月1日(金)～3月31日(金) 【場所】 公益財団法人横浜市国際交流協会内 【役割】 1 地域日本語教育の総合的な体制づくりを進める基盤となる拠点 2 外国人住民の日本語習得支援のための拠点
(3-2) 連携(連絡会、研修会)
関係団体間のネットワーキング推進に向け、地域日本語教室や国際交流ラウンジ等を対象とする連絡会や研修会を開催した。
連絡会 1
【名称】 横浜市国際交流ラウンジ協議会日本語分科会 【実施回数】 1回 【受講者数】 26人 【実施場所】 オンライン (Zoom) 【内容】 日本語教室の運営状況、各取り組み状況の共有、および日本語学習支援に関する情報交換 テーマ別ディスカッション 【開始した月】 7月 (開催日) 7月27日(水) 14:00-16:15
連絡会 2
外国籍、外国につながる親子(就学前の子どもとその親)の支援を行う子育て支援団体の担当者が、取り組みや課題を共有した。
【名称】 外国につながる就学前の子どもと親の支援に関する情報交換会(横浜) 【実施回数】 1回 【参加者数】 17団体 25人 【実施場所】 オンライン (Zoom) 【内容】 各団体の取り組み紹介、情報交換等 【開始した月】 3月 (開催日) 3月8日(水) 15:00-16:30
研修会 1
【名称】 横浜市国際交流ラウンジ協議会日本語分科会 合同研修会 「多様性をいかした、自分達らしい教室運営を考えよう ～地域日本語教育の“あるある”シミュレーションゲームを使って～」 【実施回数】 1回 【受講者数】 24人(うち国際交流ラウンジ4人) 【実施場所】 横浜国際協力センター共用会議室 【開始した月】 2月

(開催日) 2月16日(木) 10:00-12:30

【講師】 1人

【備考】 (5-1)運営者・コーディネーター向け研修と同一

(3-3) 相談対応：日本語学習、支援に関わる相談対応【重点】

よこはま日本語学習支援センターとして受けた相談、問い合わせを記録した。(多文化共生総合相談センター対応分は含まない)

【名称】 YOKE にほんご相談室

【件数】 131件

【主な内容】・日本語学習支援希望(日本語教師の求人・ボランティア希望・講座情報)
・日本語教室を探している
・研修講座企画

(3-4) 相談対応：地域日本語教室への個別訪問【重点】

地域日本語教室や区役所等が抱える地域での地域日本語教育に係る課題の解決に伴走した。

【名称】 まちの日本語伴走隊

【件数】 6件

【依頼内容および依頼者】

- ・日本語ボランティア講座の企画協力(国際交流ラウンジ他) 4件
- ・オンライン日本語教室開催に向けた勉強会支援(地域日本語教室) 1件
- ・外国につながる子ども向け行事の企画協力(区役所) 1件

(3-5) 広報・情報提供：情報冊子「にほんごコミュニケーション」の発行【重点】

【名称】 にほんごコミュニケーション

【発行日】 7月5日(通算9号)、11月5日(通算10号)、3月5日(通算11号)

【部数】 各2,500部

【言語】 日本語・英語(英語は一部分をwebサイトで公開)

【内容】 地域日本語教育に関する情報提供や、教室の取り組みなどの紹介

(特集) 9号「横浜市・地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業
2021年度のふりかえりと、これから」

10号「地域日本語教育に関するお役立ちツールの紹介

『知りたい・やってみたい・つながりたい』

11号「座談会 地域を共につくっていく～外国人の私だからこそ、できること～」

(3-6) 広報・情報提供：ホームページの運営【重点】

よこはま日本語学習支援センターのホームページの運営を行った。

【内容】 よこはま日本語学習支援センターWEBサイトの公開

【言語】 日本語・英語・その他言語は自動翻訳機能を活用

【URL】 日本語版 <https://yokohama-nihongo.com/>

英語版 <https://yokohama-nihongo.com/en>

(3-7) 広報・情報提供：日本語・学習支援教室データベース(横浜)の運営【重点】

市内日本語教室・学習支援教室の情報を掲載した教室データベースの運営を行った。

【名称】 日本語・学習支援 教室データベース(横浜)

【内容】 横浜市内で活動する日本語教室・学習支援教室の情報

【掲載数】 137教室

(3-8) 広報・情報提供：地域日本語教室・学習支援教室へのアンケート実施

コロナ禍における地域日本語教室の活動継続状況につき、アンケートを実施した。

【対象】 日本語・学習支援教室データベース（横浜）掲載団体（教室）

【実施時期】 5 月

【対象】 137 教室

【回収】 94 教室 回収率 69%

【内容】 教室の活動状況／参加者募集の有無

【その他】 アンケート結果に基づき、学習者／指導スタッフ募集中の教室リストを WEB サイトに掲載した。

(3-9) 地域日本語教育推進モデル地域 【重点】

モデル地域の設定：3 区（磯子区・緑区・瀬谷区）

当該地域と連携しながら区域での地域日本語教室支援や関連団体とのネットワーク構築等を進めた。YOKE に地域日本語教育コーディネーターを配置し、モデル地域・事業の連絡調整、実施等を行った。内容は、地域の状況・ニーズをベースとして、「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」の各取組を組み合わせて実施した。

各モデル地域における取組内容

3-9-1<磯子区>

1 連絡会への参加

【名称】 磯子区日本語教室連絡会

【実施回数】 4 回

【参加者数】 6 団体（磯子区内で活動する日本語教室・いそご多文化共生ラウンジ）

【実施場所】 磯子区役所会議室・いそご多文化共生ラウンジ

【内容】 活動状況についての情報交換等

【主催】 磯子区役所

【開始した月】 4 月

（開催日）4 月 26 日（火）、9 月 5 日（月）、12 月 13 日（火）、3 月 6 日（月）

2 講座

【名称】 「日本語教室をとおして実現する多文化共生～国際交流の輪をひろげよう」

【実施回数】 全 3 回

【参加者数】 36 人（のべ 76 人）

【実施場所】 横浜市社会教育コーナー

【内容】 第 1 回 多文化共生を実現する日本語教室って？

磯子区の多文化共生について

日本語ボランティアによる日本語教室紹介

第 2 回 気づかないうちに行っているかもしれない差別って？

第 3 回 多文化共生を実現する日本語教室の活動を考えてみよう！

国際交流ラウンジの紹介

【講師】 1 人（のべ 3 人）

【開始した月】 11 月

（開催日）11 月 22 日、29 日、12 月 6 日（火）13：30～16：30

3-9-2<緑区>

1 事業企画運営にかかる会議

【名称】みどりプロジェクト

【実施回数】4回

【参加者数】9人（緑区役所、横浜市国際交流協会、みどり国際交流ラウンジ）

【実施場所】オンライン（Zoom）

【内容】モデル地域（緑区）事業の検討、企画、運営および振り返り

【開始した月】10月

（開催日）10月5日（水）、12月14日（水）、12月19日（水）、3月20日（月）

2 講座・日本語教室

日本語教室体験研修（支援者にとっては研修、学習者にとっては日本語教室）として実施した。

講座

【名称】2022年度緑区日本語ボランティアブラッシュアップ研修

日本語教室体験 ～ようこそ にほんご@みどりく～

【実施回数】全4回

【参加者数】14人（のべ53人）

【実施場所】緑区市民活動支援センター「みどりーむ」

【内容】第1回 入門講座の振り返り・活動や教材例を見てみよう

第2回 日本語教室での活動体験1

第3回 日本語教室での活動体験2

第4回 日本語教室での活動体験3・研修総括

【講師】1人（のべ4人）

【講師アシスタント】1人（のべ4人）

【開始した月】2月

（開催日）2月3日（金）9:30-11:30

2月17日（金）、3月3日（金） 9:30-12:45

3月10日（金）9:30-12:15

日本語教室

【名称】ようこそ にほんご@みどりく

【目標】生活で使う日本語を学び、日本語でできることが増える。話したいことを日本語で伝えられるようになる。

【実施回数】全3回（1回75分）

【参加者数】7人（のべ10人）

（ウクライナ3、中国2、ネパール1、ベトナム1）

【実施場所】緑区市民活動支援センター「みどりーむ」

【内容】決まったテーマについて、楽しく日本語を学ぶ

第1回 自己紹介（話そう！自分のこと）

第2回 季節の行事（ひな祭り等）

第3回 防災カルタ（緑区について知る）

【講師】1人（のべ3人）

【講師アシスタント】1人（のべ3人）

【開始した月】2月

（開催日）2月17日（金）、3月3日（金）、3月10日（金）10:15-11:30

【関係機関との連携】あり（緑区役所と共催。みどり国際交流ラウンジの企画運営・広報協力、また、協力者として参加）

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

3-9-3<瀬谷区>

1 連絡会

【名称】瀬谷区多文化共生に係る情報交換会

【実施回数】3回

【参加者数】地域日本語教室、子育て支援団体、地域ケアプラザ、社会福祉協議会、区役所等
第1回14人、第2回11人、第3回8人

【実施場所】せやまる・ふれあい館、瀬谷区役所会議室

【内容】・活動・施設運営のなかでの、外国人住民との関わりについての情報交換
・モデル地域事業の取り組みに関する意見交換 等

【開始した月】6月

(開催日)6月21日(火)、10月28日(金)、1月30日(月)

2 日本語教室

教室1

【名称】細谷戸・親子で夏祭り体験

【目標】日本の遊びや文化の体験を通じて、日本語や日本文化にふれる。交流および生活情報の提供。

【実施回数】1回

【参加者数】33人(大人5人・子ども28人)

(中国、ベトナム、パキスタン他)

【実施場所】細谷戸第1集会所

【内容】うちわ・お面づくり、瀬谷の子育てスポット・生活情報提供等

【開始した月】8月

(開催日)8月24日(水)10:00-11:30

【講師】2人

【関係機関との連携】あり(瀬谷区と共催。県営細谷戸ハイツが会場を提供。区内子育て支援団体、日本語教室等の運営協力)

教室2

【名称】おやこでにほんご in せや「長屋門公園でお正月遊び」

【目標】日本の遊びや文化の体験を通じて、日本語や日本文化にふれる。交流および生活情報の提供。

【実施回数】1回

【参加者数】46人(大人22人、子ども24人)

(日本19人、中国13人、ベトナム6人、インドネシア3人、スリランカ3人
オーストラリア2人)

【実施場所】横浜市長屋門公園

【内容】ちぎり絵ワークショップ・カルタ・昔あそび(コマ・羽根つき等)
・生活情報の提供等

【開始した月】1月

(開催日)1月22日(日)10:30-12:30

【講師】2人

【関係機関との連携】あり（瀬谷区と共催。長屋門公園、区内子育て支援団体、日本語教室等の運営協力）

3-9-4 モデル地域連絡会

モデル地域事業実施にあたり、関係者（磯子区役所、緑区役所、瀬谷区役所、市役所、YOKE）間での共有を行った。

【名称】地域日本語教育推進モデル地域連絡会

【実施回数】1回

【参加者数】15人

【実施場所】横浜国際協力センター会議室・オンライン（Zoom）

【内容】関係者（磯子区役所、緑区役所、瀬谷区役所、市役所、YOKE）間での活動状況の共有、情報交換等

【開始した月】7月

（開催日）7月6日（水）10:00-11:30

3-9-5 2021年度モデル地域活動報告会

横浜市職員向けR4年度国際人材育成研修多文化共生セミナー（テーマ：地域日本語教育）として実施した。

【名称】2021年度地域日本語教育推進モデル地域活動報告会

「行政による地域日本語教育の推進とモデル地域の報告
こんにちは！から始めよう 多文化共生のまちづくり」

【実施回数】1回

【受講者数】73人

【実施場所】オンライン（Zoom）

【内容】基調報告「地域日本語教育を通じた多文化共生のまちづくり」
活動報告「2021年度地域日本語教育推進モデル地域3区での取組」
グループ別意見交換

【開始した月】11月

（開催日）11月16日（水）10:00-12:00

(3-10) 地域日本語シンポジウムの開催

横浜地域における地域日本語教育の総合的な体制づくりへの取組を広く周知し、取組の現状の共有、さらには今後の展望や連携体制づくりのきっかけとするシンポジウムを開催した。

【名称】横浜 まちの日本語プラットフォーム 2022「広がる やさしい日本語 文化施設・病院編」

【実施回数】1回

【参加者数】61人

【実施場所】オンライン（Zoom）

【内容】基調講演「やさしい日本語の広がり」

事例報告「文化施設からの報告（横浜市民ギャラリー）」「病院からの報告（済生会横浜市東部病院）」

コメンテーターも交えたパネルディスカッション

<p>【開始した月】3月 (開催日)3月28日(火)19:00-20:45</p>
<p>(取組④) 市区町村への意識啓発のための取組</p>
<p>なし</p>
<p>(取組⑤) 日本語教育人材に対する研修</p>
<p>(5-1) 日本語教室運営者等向け研修</p> <p>地域日本語教室運営者・コーディネーター等を対象に、研修会を実施した。開催時期は2月に行った。</p> <p>【名称】「多様性をいかした、自分達らしい教室運営を考えよう ～地域日本語教育の“あるある”シミュレーションゲームを使って～」</p> <p>【目標】・地域日本語教室の運営やコーディネートを行う立場にある人たちが、日本語教室での活動をふりかえり、また、参加者同士の情報交換等を通じて、気づきや学びを得、今後のよりよい活動につなげる。</p> <p>・地域日本語教育に係るシミュレーションゲームを通じて、立場の異なる人が対等に話し合う体験をもち、多様な価値観を知るとともに、多様性をいかした教室運営へのヒントを得る。</p> <p>【実施回数】1回(2時間30分)</p> <p>【受講者数】24人(うち、国際交流ラウンジ4人)</p> <p>【実施場所】横浜国際協力センター共用会議室</p> <p>【内容】・講義「日本語グループの運営、どうしていますか？」 「多様性をいかした、自分達らしい教室運営のためのヒント ～ボランティアマネジメント コーディネーション～」</p> <p>・シミュレーションゲーム「ANADO～あなたならどうする？」の体験とふりかえり</p> <p>・テーマ別グループトーク</p> <p>【開始した月】2月 (開催日)2月16日(木)10:00-12:30</p> <p>【講師】1人</p> <p>【その他】(3-2) 連携(連絡会、研修会) 横浜市国際交流ラウンジ協議会日本語分科会 合同研修会 と同一</p> <p>(5-2) 入門研修(一般向けコース)</p> <p>地域での日本語学習支援に関心がある人が、スムーズに活動に入れるよう多文化共生を意識した講座を行った。</p> <p>【名称】日本語ボランティア入門講座～横浜で始めよう！日本語ボランティア</p> <p>【目標】多文化共生のための日本語学習支援の考え方や方法を学び、スムーズに活動に入れるようになる。</p> <p>【実施回数】全5回(1回2時間、ただし9/16は3時間)</p> <p>【受講者数】21人(のべ38人) 地域日本語教室(交流会参加)8教室9人</p> <p>【実施場所】オンライン(Zoom)3回・横浜国際協力センター会議室2回</p> <p>【内容】地域での日本語学習支援に必要な考え方、心構え、支援の方法など 第1回日本語ボランティアって何をする人？</p>

第2回外国の人にとって、日本語ってどんなことば？

第3回日本語教室ってどんなところ？

第4回日本語教室活動を体験してみよう

第5回次の一步をふみ出そう！

地域日本語教室の皆さんと交流しよう！（地域日本語教室との交流会）

【開始した月】8月

（開催日）8月19日・26日、9月2日・9日（金）13:30-15:30

9月16日（金）13:00-16:30

【講師】2人（のべ6人）

【その他】交流会実施に向けて、地域日本語教室への説明会を行った（9月7日。12人参加）

（5-3） 入門研修（外国人対象コース）「外国の方向け日本語ボランティア入門講座」

自分の日本語学習や日本での生活経験を活かして、これから日本語教室などで日本語学習支援を始めたい外国の人向けの学習会を開催した。

【名称】「外国の方向け日本語ボランティア入門講座」

【目標】受講者が、自身の日本語学習経験をふりかえりながら、日本語ボランティア活動への理解を深め、行動につなげることを支援する。

【実施回数】全3回（1回2時間）

【受講者数】7人（のべ20人）

中国4、タイ1、ペルー1、ロシア1

【実施場所】横浜国際協力センター会議室

【内容】第1回 日本語学習支援とは？

第2回 理想の日本語教室について話しあおう

第3回 日本語学習支援をしてみよう！

【開始した月】11月

（開催日）11月9日（水）、16日（水）、30日（水）14:00-16:00

その他地域日本語教室の見学・体験

【講師】1人（のべ3人）

【その他】事後交流会（同窓会）を行い、講師および参加者有志が情報交換等を行った。（3月1日）

（5-4） ブラッシュアップ研修

日本語学習支援者にスキルアップの機会を提供し、テーマについて学ぶとともに、所属教室を超えた情報交換の場としても活用した。

【名称】日本語ボランティアブラッシュアップ講座「傾聴をいかした日本語支援」

【目標】学習者支援に役立つ傾聴の方法を知り、安心して話せる聞き方のコツや、短い質問で学習者の話を促す方法を学ぶ

【実施回数】2回（1回2時間）

【受講者数】16人（のべ32人）

【実施場所】オンライン（Zoom）

【内容】学習者と関わるうえでの傾聴について

傾聴を活かした対話の実践

【開始した月】2月

(開催日) 2月10日・24日(金) 14:00-16:00

【講師】1人(のべ2人)

(5-5)(5-6)(5-7)ICT活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」

(5-5)ビデオ会議システムZoomを使ってみよう(参加編)

(5-6)ビデオ会議システムZoomを使ってみよう(開催編)

地域日本語教室の活動継続支援としての、ICT(オンライン)活用講座。ステップを踏んで、オンラインで、また、オンライン学習教材を活用した日本語教室に、段階的になじんでいけるように構成した。6月・秋・11月の3コースを行った。

講座1(6月コース)

【名称】ビデオ会議システムZoomを使ってみよう <参加編&開催編 6月コース>

【目標】生活者としての外国人向けオンライン学習教材「つながるひろがる にほんごでの暮らし」を参加者が体験し、具体的な支援の方法とその背景にある考え方を学び、ICTを活用した学習教材や学習方法についての情報を得る。

【実施回数】2回(1回2時間)

【受講者数】参加編10人、開催編16人

【実施場所】オンライン(Zoom)

【内容】参加編「Zoomに参加してみよう」
開催編「実践に向けていろいろ体験してみよう」

【開始した月】6月

(開催日)参加編 6月15日(水)15:00-17:00

開催編 6月22日(水)15:00-17:00

【講師】2人(のべ4人)

講座2(秋コース)

【名称】ビデオ会議システムZoomを使ってみよう <参加編&開催編 秋コース>

【受講者数】参加編17人、開催編19人

【開始した月】9月

(開催日)参加編 9月6日(火)10:00-12:00

開催編 9月13日(火)10:00-12:00

講座3(11月コース)

【名称】ビデオ会議システムZoomを使ってみよう <参加編&開催編 11月コース>

【受講者数】参加編8人、開催編11人

【開始した月】11月

(開催日) 参加編 11月18日(金) 13:30-15:30

開催編 11月25日(金) 13:30-15:30

以下は、6月コースと同じ。

【目標】【実施回数】【実施場所】【内容】【講師】

(5-7) 活用(日本語支援)編「オンライン教材・会議システムを活用した日本語学習支援」

支援者向けオンライン日本語学習支援講座の参加編、開催編に続き、日本語学習支援者が、オンライン日本語学習教材にふれながら活動を学ぶ「活用編」として講座を実施した。夏・秋・冬の3コースを行った。

講座1(夏コース)

【名称】オンライン日本語学習支援講座「オンライン日本語学習教材を活用してみよう」
～「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を中心に～ 夏コース

【目標】オンライン日本語学習教材体験することを通じて、具体的な支援の方法とその背景にある考え方を学ぶ。また、多様な学習教材や学習法についての情報を得るなど今後の実践にむけた後押しを行う。

【実施回数】全2回(1回2時間)

【受講者数】24人(のべ38人)

【実施場所】オンライン(Zoom)

【内容】前編 オンライン日本語学習サイトを活用した支援を体験しよう
後編 より楽しく!オンライン日本語学習支援の実践に向けて

【開始した月】7月

(開催日)7月4日(月)、7月11日(月) 10:00-12:00

【講師】1人(のべ2人)

講座2(秋コース)

【名称】オンライン日本語学習支援講座「オンライン日本語学習教材を活用してみよう」
～「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を中心に～ 秋コース

【受講者数】23人(のべ42人)

【開始した月】9月

(開催日)9月25日(日)、10月2日(日) 10:30-12:30

講座3(冬コース)

【名称】オンライン日本語学習支援講座「オンライン日本語学習教材を活用してみよう」
～「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を中心に～冬コース

【受講者数】17人(のべ30人)

【実施場所】オンライン(Zoom)

【開始した月】12月

(開催日)12月6日(火)、13日(火) 10:00-12:00

以下は、夏コースと同じ。

【目標】【実施回数】【実施場所】【内容】【講師】

(5-8) 日本語教育人材の活躍促進

(5-8-1) 関連事業「よこはま地域日本語実践もちより会」

・講座修了者を中心として、地域日本語教育に係る支援者等を組織化し（仮称：よこはま日本語サポーター制度）、本事業での講師・支援者・協力者等として事業に参画し、さらには、地域日本語教室や行政、企業等との連携支援にも関わられるような体制構築をめざす予定であったところ、総合調整会議やプロジェクト推進ワーキンググループにおいて検討した結果、人材活用の方法やそのために必要な研修等を含めて、改めて議論することとなった。

・なお、過年度研修受講修了者を対象とした、地域日本語教室等での活動実践者の情報交換会「よこはま地域日本語実践もちより会」を実施した（3月1日 14:00-16:00 横浜国際協力センター会議室およびオンラインにて。参加者15人）。

(5-9) (取組3) 地域日本語教育推進モデル地域事業として実施した研修 【再掲】

(3-9-1) モデル地域：磯子区

講座1【再掲】

【名称】「日本語教室をとおして実現する多文化共生～国際交流の輪をひろげよう」

【実施回数】全3回（1回3時間）

【参加者数】36人（のべ76人）

【実施場所】横浜市社会教育コーナー

【開始した月】11月

（開催日）11月22日、29日、12月6日（火）13:30～16:30

(3-9-2) モデル地域：緑区

講座2【再掲】

【名称】2022年度緑区日本語ボランティアブラッシュアップ研修

日本語教室体験 ～ようこそ にほんご@みどりく～

【開始した月】2月

（開催日）2月3日（金）9:30-11:30

2月17日（金）、3月3日（金） 9:30-12:45

3月10日（金）9:30-12:15

(取組⑥) 地域日本語教育の実施

実施するものに○ 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育

日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育

実施箇所数	20か所	受講者数 (実人数)	529人
活動1 既設	(6-1) 企業従業者向け日本語教室 外国人従業者を対象とし、職場や地域生活において必要な日本語や日本人とのコミュニ		

ケーションのコツを学ぶ日本語教室を、2期開催した。実施にあたっては業界団体等と連携を行った。

教室 1

【名称】今すぐ使える！しごとの日本語教室

【目標】職場や地域での生活において、必要な日本語やコミュニケーションのコツを学ぶ

【実施回数】10回（1回90分）

【受講者数】11人（延べ99人）

ベトナム5、中国2、ミャンマー2、バングラデシュ1、フィリピン1

横浜の企業に就労している外国籍従業員（製造業、人材派遣・紹介業等7社）

【実施場所】オンライン（Zoom）9回・横浜市国際交流協会会議室1回

【内容】職場等におけるコミュニケーションスキルアップを目指す内容

日本の社会と日本人の特徴／コミュニケーション力アップの秘訣

雑談で円滑な関係を築く／わかりやすく説明するヒント／

報告・連絡のステップ／上手に相談する／敬語トレーニング（基礎・応用）

異文化間コミュニケーション

【開始した月】8月

（開催日）8月17日、24日、31日、9月7日、14日、21日、28日

10月5日、12日、19日（水）19:00-20:30

【講師】2人（のべ20人）

【その他】企業向けニュースレターを発行し、教室の様子を伝えた

【関係機関との連携】あり（市工業連合会および横浜市経営支援財団から、企業への橋渡しや広報協力を得た。横浜市内の企業数社からニーズ聞き取りや従業員の教室参加などを得た）

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

教室 2（第2期）

【名称】今すぐ使える！しごとの日本語教室 第2期

【受講者数】26人（のべ195人）

ベトナム10、中国6、ミャンマー6、インド1、スペイン1、スリランカ1、台湾1

横浜の企業に就労している外国籍従業員（製造業、労働者派遣業、非営利団体等11社）

【実施場所】オンライン（Zoom）8回

横浜市国際交流協会会議室 2回（1/18、2/22）

【内容】職場等におけるコミュニケーションスキルアップを目指す内容

（仕事の言葉や表現、ビジネスマナー、仕事や生活の漢字、横浜情報など）

【開始した月】12月

（開催日）12月14日、21日、28日、1月11日、18日、25日、

2月1日、8日、15日、22日（水）19:00-20:30

	<p>以下は、教室 1 と同じ。</p> <p>【目標】【実施回数】【内容】【講師】【関係機関との連携】日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無</p>
<p>活動 2 既設</p>	<p>6-2外国人親子日本語教室 横浜市内の就学前の子どもと親が楽しみながら日本語に関わる機会として開催した。</p> <p>教室 1 (オンライン)</p> <p>【名称】外国人親子日本語教室「なつやすみ YOKE でにほんご (オンライン)」</p> <p>【目標】外国につながる親子が子育て、子どもの成長を支援するうえで学んでおくべき知識と、それに関連した日本語能力を習得することを通して、子育ての今後の見通しを立てる一助とする。</p> <p>【実施回数】2 回 (1 回 2 時間)</p> <p>【受講者数】19 人 親子 10 組 (親 7 人、子 12 人) (延べ 26 人) 中国 7 人、ウクライナ 7 人、インド 2 人、イギリス 2 人、日本 1 人</p> <p>【実施場所】オンライン (Zoom)</p> <p>【内容】絵を描いたり工作を取り入れるなど子どもと親と一緒に楽しみながら日本語に触れる内容 第 1 回「みんなのどうぶつえん」 第 2 回「みんなのすいぞくかん」</p> <p>【開始した月】8 月 (開催日) 8 月 3 日 (水)、10 日 (水) 10:00-12:00</p> <p>【講師】1 人 (のべ 2 人) 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした</p> <p>教室 2 (スマイル・ポート)</p> <p>【名称】おやこで にほんご ヨガ@スマイル・ポート</p> <p>【実施回数】1 回 (1 回 90 分)</p> <p>【受講者数】35 人 (親 18 人、子 17 人) 親子 14 組 3 組 (ウクライナ、中国) 2 組 (アメリカ、ネパール) 1 組 (カナダ、台湾、ドイツ、日本)</p> <p>【実施場所】西区地域子育て支援拠点「スマイル・ポート」</p> <p>【内容】親子ヨガ、手遊び歌、交流などを、日本語を使いながら親子で楽しむ</p> <p>【開始した月】2 月 (開催日) 2 月 25 日 (土) 10:30-12:00</p> <p>【講師】1 人</p> <p>【関係機関との連携】あり (西区地域子育て支援拠点「スマイル・ポート」と共催)</p> <p>以下は、教室 1 (オンライン) と同じ。</p>

	<p>【目標】日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無</p> <p>講座への協力</p> <p>【名称】NIHONGO day 親子で遊ぼう</p> <p>【実施回数】1回（1回90分）</p> <p>【受講者数】22人 親子11組（日本16人、ペルー4人、中国2人）</p> <p>【実施場所】潮田公園コミュニティハウス</p> <p>【内容】絵本読み聞かせ、紙芝居、外遊び（竹とんぼ・シャボン玉・紙ひこうき）など</p> <p>【協力内容】講座に使用する資料の提供、情報提供など</p> <p>【開始した月】10月 （開催日）10月17日（月）10:00-11:30</p> <p>【主催】ふらっとるーむ潮田・鶴見国際交流ラウンジ</p>
活動3 既設	<p><u>(6-3) 初期日本語教室「はじめての横浜」</u></p> <p>日本語を学習した経験がない、または学習を始めたばかりの外国人を対象に、入門レベルの教室を開催した。7月・10月・1月の3コースを行った。</p> <p>教室1（7月コース）</p> <p>【名称】「はじめての横浜 日本語で話そう」7月コース</p> <p>【目標】日本語を学習した経験がない、または学習を始めたばかりの外国人がコミュニケーション初歩のあいさつ言葉などを学習する。また、横浜で暮らすために必要となる情報を得、地域での活動につながるようにする。</p> <p>【実施回数】10回（1回75分）</p> <p>【受講者数】12人（延べ58人） 中国4、アメリカ1、アルゼンチン1、イエメン1、ウクライナ1、台湾1、ネパール1、フィリピン1、ベトナム1</p> <p>【実施場所】オンライン（Zoom）</p> <p>【内容】挨拶、自己紹介など生活に役立つ入門レベルの日本語学習／生活情報</p> <p>【開始した月】7月 （開催日）7月4日、7日、11日、14日、21日、25日、28日、 8月1日、4日、8日 月曜日・木曜日 14:00-15:15</p> <p>【講師】3人（のべ30人）</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした</p> <p>教室2（10月コース）</p> <p>【名称】「はじめての横浜 日本語で話そう」10月コース</p> <p>【受講者数】17人（延べ86人）</p>

	<p>中国 4、インド 2、ネパール 2、フィリピン 2、イエメン 1、イギリス 1、スリランカ 1、台湾 1、ベトナム 1、香港 1、メキシコ 1</p> <p>【開始した月】 10 月 (開催日) 10 月 13 日、17 日、20 日、24 日、27 日、31 日 11 月 7 日、10 日、14 日、17 日 月曜日・木曜日 14:00-15:15</p> <p>教室 3 (1 月コース)</p> <p>【名称】「はじめての横浜 日本語で話そう」1 月コース 【受講者数】 14 人 (のべ 100 人) 中国 8、香港 1、アメリカ 1、ウクライナ 1、サウジアラビア 1、フィリピン 1、ベトナム 1</p> <p>【開始した月】 1 月 (開催日) 1 月 16 日、19 日、23 日、26 日、30 日 2 月 2 日、6 日、9 日、13 日、16 日 月曜日・木曜日 14:00-15:15</p>
<p>活動 4 既設</p>	<p>(6-4) ICT 活用日本語教室 日本語学習者向け「オンライン教材を活用した日本語教室」</p> <p>オンライン学習教材を用いた学習の機会、また、幅広い学習の選択肢を提供し、自律学習へとつながるような日本語教室を実施した。夏・秋・冬の 3 コースを行った。</p> <p>教室 1 (夏コース)</p> <p>【名称】 日本語教室「よこはまでつながる 暮らしの日本語」夏コース 【目標】 オンライン学習教材を活用した日本語教室への参加を通して、学習者がオンライン学習教材を使用する契機となる。幅広い学習の選択肢を提供することで、自律学習へとつなげる。 【実施回数】 5 回 (1 回 90 分) 【受講者数】 学習者 13 人 (のべ 35 人) 中国 6、インド 3、ウズベキスタン 1、ブラジル 1、ベトナム 1、メキシコ 1 サポーター (日本語学習支援者) 9 人 (のべ 36 人) 【実施場所】 オンライン (Zoom) 【内容】 文化庁「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を活用し、生活に密着したことばを学習する 第 1 回：上手に買い物しよう 第 2 回：災害のとき、どうする 第 3 回：夏祭り 第 4 回：病院でどうする 第 5 回：これはなんのゴミ？ 【開始した月】 7 月 (開催日) 7 月 25 日、8 月 1 日、8 日、22 日、29 日 月曜日 10:00-11:30</p>

【講師】1人（のべ5人）

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

教室2（秋コース）

【名称】日本語教室「よこはまでつながる 暮らしの日本語」秋コース

【受講者数】学習者14人（のべ45人）

中国8・ベトナム2・イギリス1・台湾1・フィリピン1

メキシコ1

サポーター（日本語学習支援者）4人（のべ13人）

【内容】文化庁「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を活用し、生活に密着した
ことばを学習する

第1回：電車に乗ろう

第2回：病気を予防しよう

第3回：おすすめのレストラン

第4回：コンビニを使おう

第5回：美容院のことば

【開始した月】10月

（開催日）10月16日、23日、30日、11月6日、13日 日曜日 10:30-12:00

教室3（冬コース）

【名称】日本語教室「よこはまでつながる 暮らしの日本語」冬コース

【受講者数】11人（のべ37人）

中国7、台湾1、韓国1、モンゴル1、フィリピン1

サポーター（日本語学習支援者）7人（延べ20人）

【内容】文化庁「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を活用し、生活に密着した
ことばを学習する

第1回：おすすめのレストラン

第2回：この薬ありますか

第3回：病院でどうする

第4回：電車に乗ろう

第5回：上手に買い物しよう

【開始した月】1月

（開催日）1月10日、17日、24日、31日、2月7日 火曜日 10:00-11:30

以下は、教室1（夏コース）と同じ。

【目標】【実施回数】【実施場所】【講師】日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無

活動 5 新設	<p>(6-5) ウクライナ避難民向け日本語学習支援</p> <p>横浜に滞在するウクライナ避難民等が安全・安心に生活できるよう、日常生活に必要なことばや文化習慣等に関する学習支援を実施した。</p> <p>(6-5-1) 日本語教室</p> <p>教室 1</p> <p>【名称】にほんごクラス“ドゥルーズィ” みなとコース 1</p> <p>【目標】日本に住み始めたばかりで、日本語を初めて学ぶ避難民が、安心できる環境で、基本的な日本語の表現を学ぶ。</p> <p>【実施回数】4回（1回あたり75分）</p> <p>【受講者数】13人（のべ33人）</p> <p>【実施場所】ウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」</p> <p>【内容】生活に必要な基本的な日本語の学習</p> <p>【開始した月】6月</p> <p>（開催日）6月3日、8日、10日、15日 金・水曜日 10:30-11:45</p> <p>【講師】2人（のべ4人）</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした</p> <p>教室 2</p> <p>【名称】にほんごクラス“ドゥルーズィ” みなとコース 2</p> <p>【受講者数】12人（のべ35人）</p> <p>【開始した月】6月</p> <p>（開催日）6月17日、22日、24日、29日 金・水曜日 10:30-11:45</p> <p>以下は、みなとコース1と同じ。</p> <p>【目標】【実施回数】【実施場所】【内容】【講師】日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無</p> <p>教室 3</p> <p>【名称】にほんごクラス“ドゥルーズィ” みらいコース</p> <p>【目標】日本での生活に役立つ基本的な日本語の表現・言葉を、主に生活場面から学習する。また、日本語で実際にコミュニケーションしながら、お互いに理解し合う。</p> <p>【実施回数】14回（1回あたり90分）</p> <p>【受講者数】17人（のべ108人）</p> <p>【実施場所】ウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」</p> <p>【内容】生活場面や日常のコミュニケーションに役立つテーマ（トピック）に基づく日本語活動</p> <p>【テーマ】第1回 自己紹介とあいさつ 第2回 趣味</p>
------------	---

第3回 ごみのだしかた

第4回 買い物

第5回 私の一日

第6回 私の一日

第7回 買い物

第8回 食べ物と味

第9回 レストラン

第10回 季節と天気

第11回 健康

第12回 乗り物

第13回 誘う

第14回 発表、スピーチ

【開始した月】11月

(開催日) 11月22日、29日、12月6日、13日、20日、1月10日、17日、24日、
31日 2月7日、14日、21日、28日、3月7日 火曜日 10:30-12:00

【講師】2人 (のべ14人)

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

教室4

【名称】新山下にほんごクラス

【目標】日本での生活に役立つ基本的な日本語の表現・言葉を、主に生活の場面から学習する。また、横浜の生活に慣れるきっかけを作る。

【実施回数】13回 (1回あたり60分。1月から75分)

【受講者数】5人 (のべ47人)

【実施場所】ベイサイド新山下集会所

【内容】生活場面や日常のコミュニケーションに役立つ日本語学習。生活情報。
地域の方との交流会

【開始した月】11月

(開催日) 11月30日、12月7日、14日、21日、1月11日、18日、25日、2月1日、
8日、15日、22日、29日、3月8日 水曜日 10:30-11:30

【講師】2人 (のべ26人)

【その他】関係者向けに、教室の様子を伝える教室開催レポートを作成・配布した。

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

教室5

【名称】ウクライナの人のためのしごとの日本語サロン

【目標】仕事や日本の生活に必要な日本語、日本人とのコミュニケーションについて学び、地域の中で生活するために必要なマナーや暮らしの慣習を知る機会とす

	<p>る。</p> <p>【実施回数】9回（1回あたり1時間）</p> <p>【受講者数】7人（のべ42人）</p> <p>【実施場所】オンライン（Zoom）</p> <p>【内容】仕事や生活で役に立つ短いフレーズの学習など *仕事の場面や日常のコミュニケーションに役立つテーマに基づく日本語活動を予定していたが、学習者の状況と希望に合わせ、内容を変更した。</p> <p>【開始した月】1月 （開催日）1月13日、20日、27日、2月3日、10日、17日、24日、3月3日、10日 金曜日 19:00-20:00</p> <p>【講師】1人（のべ9人）</p> <p>【講師アシスタント兼通訳】2人（のべ9人）</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした</p>																																												
<p>活動6 新設</p>	<p><u>(6-5) ウクライナ避難民向け日本語学習支援</u></p> <p><u>(6-5-2) ドゥルーズィ日本語ワークショップ</u></p> <p>【名称】ドゥルーズィ日本語ワークショップ</p> <p>【目標】日本の文化や季節行事・習慣などに触れる体験型のワークショップを通じて、日本語や日本の生活習慣を学ぶ。併せて、参加者が役立つ情報を得、参加者同士が気軽に交流できる場とする。</p> <p>【実施回数】全1回×10回（1回90分）</p> <p>【実施場所】ウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」</p> <p>【講師】3人（ただし5月は1人）</p> <p>【開催日】【開催時間】【受講者数】【テーマ】は下記参照のこと。</p> <table border="1" data-bbox="347 1326 1417 1868"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>開催時間</th> <th>受講者</th> <th>テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月27日(金)</td> <td>16:00-17:30</td> <td>18人</td> <td>6月のカレンダーをつくってみよう</td> </tr> <tr> <td>7月1日(金)</td> <td>15:30-17:00</td> <td>19人</td> <td>七夕</td> </tr> <tr> <td>8月12日(金)</td> <td>15:30-17:00</td> <td>17人</td> <td>盆踊り</td> </tr> <tr> <td>9月9日(金)</td> <td>15:30-17:00</td> <td>31人</td> <td>スーパーでお買い物</td> </tr> <tr> <td>10月7日(金)</td> <td>15:30-17:00</td> <td>20人</td> <td>ふろしき</td> </tr> <tr> <td>11月4日(金)</td> <td>15:30-17:00</td> <td>17人</td> <td>書道/習字</td> </tr> <tr> <td>12月2日(金)</td> <td>15:30-17:00</td> <td>16人</td> <td>正月の準備</td> </tr> <tr> <td>1月13日(金)</td> <td>15:30-17:00</td> <td>21人</td> <td>正月の遊び</td> </tr> <tr> <td>2月3日(金)</td> <td>15:30-17:00</td> <td>19人</td> <td>紙芝居</td> </tr> <tr> <td>3月3日(金)</td> <td>15:30-17:00</td> <td>34人</td> <td>ひなまつり</td> </tr> </tbody> </table> <p>【関係機関との連携】あり（横浜YMCAが見守り保育を担当した）</p> <p>「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした</p>	開催日	開催時間	受講者	テーマ	5月27日(金)	16:00-17:30	18人	6月のカレンダーをつくってみよう	7月1日(金)	15:30-17:00	19人	七夕	8月12日(金)	15:30-17:00	17人	盆踊り	9月9日(金)	15:30-17:00	31人	スーパーでお買い物	10月7日(金)	15:30-17:00	20人	ふろしき	11月4日(金)	15:30-17:00	17人	書道/習字	12月2日(金)	15:30-17:00	16人	正月の準備	1月13日(金)	15:30-17:00	21人	正月の遊び	2月3日(金)	15:30-17:00	19人	紙芝居	3月3日(金)	15:30-17:00	34人	ひなまつり
開催日	開催時間	受講者	テーマ																																										
5月27日(金)	16:00-17:30	18人	6月のカレンダーをつくってみよう																																										
7月1日(金)	15:30-17:00	19人	七夕																																										
8月12日(金)	15:30-17:00	17人	盆踊り																																										
9月9日(金)	15:30-17:00	31人	スーパーでお買い物																																										
10月7日(金)	15:30-17:00	20人	ふろしき																																										
11月4日(金)	15:30-17:00	17人	書道/習字																																										
12月2日(金)	15:30-17:00	16人	正月の準備																																										
1月13日(金)	15:30-17:00	21人	正月の遊び																																										
2月3日(金)	15:30-17:00	19人	紙芝居																																										
3月3日(金)	15:30-17:00	34人	ひなまつり																																										

<p>活動 7 新設</p>	<p><u>(6-5) ウクライナ避難民向け日本語学習支援</u> <u>(6-5-3) 支援者むけコミュニケーション講座</u></p> <p>【名称】ウクライナスタッフのための仕事の日本語・コミュニケーション講座</p> <p>【目標】スタッフとして相談、日本語教室開催支援、通訳等を行う中で必要な日本語やマナー、コミュニケーションを学ぶ</p> <p>【実施回数】4回（1回90分）</p> <p>【受講者数】5人（のべ18人）</p> <p>【実施場所】オンライン（Zoom）</p> <p>【内容】リフレクション方式により、業務で使う日本語、仕事のマナー、文化による違いなどを学ぶ。</p> <p>【開始した月】2月 （開催日）2月8日・15日・22日・3月1日（水）18:00-19:30</p> <p>【講師】2人（のべ8人）</p> <p>「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした</p>
<p>活動 8 新設</p>	<p><u>(6-6) (取組3) 地域日本語教育推進モデル地域事業として実施した日本語教室</u> <u>(3-9-2) 〈緑区〉</u></p> <p>・教室1【再掲】</p> <p>【名称】ようこそほんご@みどりく</p> <p>【目標】生活で使う日本語を学び、日本語でできることが増える。話したいことを日本語で伝えられるようになる。</p> <p>【実施回数】全3回（1回75分）</p> <p>【参加者数】7人（のべ10人）</p> <p>【実施場所】緑区市民活動支援センター「みどりーむ」</p> <p>【開始した月】2月 （開催日）2月17日（金）、3月3日（金）、3月10日（金）10:15-11:30</p> <p>【講師】1人（のべ4人）</p> <p>【講師アシスタント】1人（のべ4人）</p> <p><u>(3-9-3) 〈瀬谷区〉</u></p> <p>・教室2【再掲】</p> <p>【名称】細谷戸・親子で夏祭り体験</p> <p>【目標】日本の遊びや文化の体験を通じて、日本語や日本文化にふれる。交流および生活情報の提供。</p> <p>【実施回数】1回（1回90分）</p> <p>【参加者数】33人（大人5人・子ども28人）</p> <p>【実施場所】細谷戸第1集会所</p> <p>【内容】うちわ・お面づくり、瀬谷の子育てスポット・生活情報提供等</p>

	<p>【開始した月】 8 月 (開催日) 8 月 24 日 (水) 10:00-11:30</p> <p>【講師】 2 人</p> <p>・教室 3【再掲】</p> <p>【名称】 おやこでにほんご in せや「長屋門公園でお正月遊び」</p> <p>【目標】 日本の遊びや文化の体験を通じて、日本語や日本文化にふれる。交流および生活情報の提供。</p> <p>【実施回数】 1 回 (1 回 1 時間)</p> <p>【参加者数】 46 人 (大人 22 人、子ども 24 人) 日本 19 人、中国 13 人、ベトナム 6 人、インドネシア 3 人、スリランカ 3 人 オーストラリア 2 人</p> <p>【実施場所】 長屋門公園</p> <p>【内容】 ちぎり絵ワークショップ・カルタ・昔あそび (コマ・羽根つき等) ・生活情報の提供等</p> <p>【開始した月】 1 月 (開催日) 1 月 22 日 (日) 10:30-12:30</p> <p>【講師】 2 人</p>
(取組⑦～⑭) その他の取組	
<p>(取組⑧) 地域日本語教育の効果をもとめるための取組</p> <p><u>(8-1) 欠番</u></p> <p><u>(8-2) 学習者向けにほんご交流会</u></p> <p>日本語を勉強している人 (外国人など) が、日本語で楽しく交流する集まりを行った。</p> <p>【名称】 オンラインおしゃべり交流会 ほっとタイム NIHONGO ではなそう!</p> <p>【目標】 日本語学習 (希望) 者等がオンラインで気軽に参加でき、互いに交流しながら日本語を楽しく使用する。</p> <p>【実施回数】 全 1 回×12 か月 (1 回 1 時間)</p> <p>【受講者数】 学習者 29 人、ボランティア (日本語学習経験者) 他 23 人</p> <p>【実施場所】 オンライン (Zoom)</p> <p>【内容】 テーマに沿った小グループでのフリートーク。</p> <p>【テーマ】 旅行/私のゴールデンウィーク/私のおすすめの場所/日本の夏の風物詩/ 防災/秋のおでかけ/祝日/年未年始/年始め/2 月の過ごし方/3 月の行事</p> <p>【開始した月】 4 月 (開催日) 4 月 26 日 (火) 10:30~11:30 5 月 11 日、6 月 22 日、7 月 20 日、8 月 24 日、9 月 28 日、10 月 19 日、 11 月 30 日、12 月 21 日、1 月 25 日、2 月 15 日、3 月 8 日 いずれも水曜日 10:15~11:15</p>	

【進行】 3人（YOKE スタッフ・入門講座外国人コース修了者等）

（取組 9）地域日本語教育に付随して行われる取組

（9-1）企業向け異文化間理解講座

外国人を雇用している企業向けに、職場でのコミュニケーションについての講座を開催した。

講座 1（12月）

【名称】外国人スタッフに伝える！伝わる！異文化間コミュニケーション講座

【目標】異文化間におけるコミュニケーション力の向上により、外国人も含めた職場での円滑なコミュニケーションが図れるようになる。また、「外国人従業員向け日本語教室」の周知・受講につなげる。

【実施回数】1回（1回100分）

【受講者数】5人

企業2、大学1、日本語学校1、地域日本語教室1

【実施場所】オンライン（zoom）

【内容】外国人雇用の現状／外国人就労者にみられる特徴と企業の悩み／異文化間コミュニケーションなど

【開始した月】12月

（開催日）12月1日（木）16:00-17:40

【講師】1人

【関係機関との連携】あり（公益財団法人横浜企業経営支援財団、一般社団法人横浜市工業会連合会、横浜商工会議所他。広報協力など）

講座 2（3月）

【名称】外国人スタッフに伝える！伝わる！異文化間コミュニケーション講座
～ともに働くために大切なこと～

【実施回数】1回（1回40分）

【受講者数】12人

企業5、国際交流団体3、地域日本語教室3、個人1

【開始した月】3月

（開催日）3月1日（水）12:10-12:50

以下は、12月と同じ。

【目標】【実施場所】【内容】【講師】【関係機関との連携】

（取組 10）日本語教育に関する広報活動

（3-5）広報・情報提供：情報冊子「にほんごコミュニケーション」の発行【重点】【再掲】

【名称】にほんごコミュニケーション

【発行回数】3回（7月、11月、3月）

(3-6) 広報・情報提供：ホームページの運営 【重点】【再掲】

【内容】よこはま日本語学習支援センターWEBサイトの公開

(3-7) 広報・情報提供：日本語・学習支援教室データベース（横浜）の運営 【重点】【再掲】

【名称】日本語・学習支援 教室データベース（横浜）

【内容】横浜市内で活動する日本語教室・学習支援教室の情報

【掲載数】137 教室

(3-8) 広報・情報提供：地域日本語教室・学習支援教室へのアンケート実施 【再掲】

【対象】日本語・学習支援教室データベース（横浜）掲載団体（教室）

【内容】教室の活動状況／参加者募集の有無

(取組 11) ICT を活用した教育・支援

(5-5) (5-6) (5-7) ICT 活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」

(5-5) ビデオ会議システム Zoom を使ってみよう（参加編）【再掲】

(5-6) ビデオ会議システム Zoom を使ってみよう（開催編）【再掲】

講座 1(6 月コース)

【名称】ビデオ会議システム Zoom を使ってみよう <参加編&開催編 6 月コース>

【実施回数】2 回（1 回 2 時間）

講座 2(秋コース)

【名称】ビデオ会議システム Zoom を使ってみよう <参加編&開催編 秋コース>

【実施回数】2 回（1 回 2 時間）

講座 3(11 月コース)

【名称】ビデオ会議システム Zoom を使ってみよう <参加編&開催編 11 月コース>

【実施回数】2 回（1 回 2 時間）

(5-7) 活用（日本語支援）編「オンライン教材・会議システムを活用した日本語学習支援」【再掲】

講座 1（夏コース）

【名称】オンライン日本語学習支援講座「オンライン日本語学習教材を活用してみよう」

～「つながるひろがるにほんごでのくらし」を中心に～ 夏コース

【実施回数】全 2 回（1 回 2 時間）

講座 2 (秋コース)

【名称】 オンライン日本語学習支援講座「オンライン日本語学習教材を活用してみよう」
～「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を中心に～ 秋コース

【実施回数】 全 2 回(1 回 2 時間)

講座 3 (冬コース)

【名称】 オンライン日本語学習支援講座「オンライン日本語学習教材を活用してみよう」
～「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を中心に～冬コース

【実施回数】 全 2 回(1 回 2 時間)

(6-4) ICT 活用日本語教室 日本語学習者向け「オンライン教材を活用した日本語教室」【再掲】

教室 1 (夏コース)

【名称】 日本語教室「よこはまでつながる 暮らしの日本語」夏コース

【実施回数】 5 回 (1 回 90 分)

教室 2 (秋コース)

【名称】 日本語教室「よこはまでつながる 暮らしの日本語」秋コース

【実施回数】 5 回 (1 回 90 分)

教室 3 (冬コース)

【名称】 日本語教室「よこはまでつながる 暮らしの日本語」冬コース

【実施回数】 5 回 (1 回 90 分)

(取組 13) 成果の普及

1 (取組③) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

(2) 地域日本語教育推進モデル地域「令和 3 年度モデル地域事業実施報告会」

3-9-5 2021 年度モデル地域活動報告会【再掲】

【名称】 2021 年度地域日本語教育推進モデル地域活動報告会

「行政による地域日本語教育の推進とモデル地域の報告

こんにちは！から始めよう 多文化共生のまちづくり」

【実施回数】 1 回

(取組 14) その他関連する項目

1 (取組③) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

(3) 地域日本語シンポジウムの開催 (再掲)

(3-10) 地域日本語シンポジウムの開催				
【名称】 横浜 まちの日本語プラットフォーム 2022 「広がる やさしい日本語 文化施設・病院編」				
【実施回数】 1 回				
2. 市区町村の日本語教育の取組への支援				
(取組①) 市区町村を支援して実施する日本語教育				
なし				
(取組②) 取組 1 以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育				
なし				
3. 「日本語教育の推進に関する法律」第 1 1 条に基づく基本的な方針の作成				
(取組①) 基本的な方針を作成する上で必要となる委員会の設置				
【委員会の実施結果】 取組なし				
実施回数				
実施スケジュール				
主な検討項目				
【設置する委員会は、条例に基づく委員会か】				
【 <input type="checkbox"/> 】 条例に基づく 【 <input type="checkbox"/> 】 それ以外 (※どちらか○で選択)				
	氏名	所属	職名	役割
1				
2				
3				
(取組②) 委員会における審議の基礎資料とするための調査実施				
なし				
(取組③) 委員会における調査審議を踏まえた基本的な方針の作成				
なし				

5 主要な取組の実施状況

令和 4 年 4 月	補助金交付決定、事業開始 (取組 2) 総括コーディネーター・地域日本語教育コーディネーターの配置 (取組 3) 相談対応、地域日本語教室への個別訪問 ((※) 以降、随時対応)
5 月	(取組 3) データベース掲載団体情報調査・活動状況についてのアンケート (取組 6) ウクライナ避難民等向け日本語ワークショップ開催 (※) 以降、適宜開催
6 月	(取組 1) 第 1 回総合調整会議 (取組 1) プログラムアドバイザーの配置 (取組 5) ICT 活用講座・支援者向け (6 月コース) 開催 (取組 6) 日本語教室ドゥルーズィみなとコース開催

7月	(取組3)情報冊子通算9号発行 (取組5)ICT活用講座・支援者向け(夏コース)開催 (取組6)初期日本語教室「はじめての横浜」7月コース開催 (取組6)ICT活用日本語教室「よこはまでつながるくらしの日本語」夏コース開催
8月	(取組3)モデル地域(瀬谷区)講座 (取組5)入門講座(一般コース) (取組6)親子日本語教室開催 (取組6)企業従業員向け日本語教室開催(1期)開催
9月	(取組5)ICT活用講座・支援者向け(秋コース)開催
10月	(取組6)ICT活用日本語教室 秋コース開催
11月	(取組1)第2回総合調整会議 (取組3)情報冊子通算10号発行 (取組3)モデル地域(磯子区)講座 (取組3)地域日本語教育推進モデル地域活動報告会 (取組5)入門講座(外国人向けコース) (取組6)日本語教室ドゥルーズィみらいコース開催 (取組6)新山下にほんごクラス開催
12月	(取組5)ICT活用講座・支援者向け(冬コース)開催 (取組6)企業従業員向け日本語教室開催(2期)開催
令和5年1月	(取組1)プロジェクト推進ワーキンググループ (取組3)モデル地域(瀬谷区)講座 (取組6)ICT活用日本語教室 冬コース開催
2月	(取組3)モデル地域(緑区)講座(日本語教室体験研修) (取組5)ブラッシュアップ研修 (取組5)運営者等向け研修会 (取組6)親子日本語教室開催
3月	(取組1)第3回総合調整会議 (取組3)情報冊子通算11号発行 (取組3)地域日本語シンポジウム 事業終了、実績報告書の提出

6 評価と検証

1. 令和4年度の計画の評価と検証方法

【令和4年度の目標】（再掲）

- ・外国人住民に身近な存在である「地域日本語教室」を横浜市域の地域日本語教育推進のベースとして、教室間のネットワーキングを通して日本語指導力の強化や教室の活動内容の改善等、各教室の底上げが図られるような仕組みづくりを行う。
- ・「横浜市国際交流協会（YOKE）」は地域日本語教育の中核的な役割を担い、上記ネットワーク構築の支援、日本語学習支援者の発掘や育成、新たなニーズに応える日本語教室の開催などの実施を通し、地域における日本語教育を支援・推進する。
- ・市域日本語教育の推進に係る関係機関・団体等の有機的な連携の促進が図られる。

【令和4年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】

【指標1：定量評価目標】

○目標値 事業連携団体数 170 団体（うち、企業との連携数3社）

（前年実績 160 団体（うち、企業との連携数3社）

○実績値 事業連携団体数 173 団体（うち、企業等との連携数4社）

行政機関が主催する日本語支援事業への協力依頼の増加、団地での日本語教室開催等により、新たな団体と連携することができた。継続的な取り組みにより、業界団体とのつながりも強化できた。

【指標2：定量評価目標】

○目標値

モデル地域における事業関係者（講師、協力者、サポーター等）および事業協力団体 42 人・団体
（前年実績 42 人・団体）

○実績値 44 人・団体

特に瀬谷区において、情報交換会、各イベントでの協力など、新たな連携関係を構築することができた。

【指標3：定量評価目標】

○目標値 よこはま日本語学習センター機能の充実

情報冊子発行部数 3 号計 9,000 部・web ページ閲覧数 50,000

データベース掲載教室数 133

（前年実績 情報冊子 4 号計 8,900 部・web ページ閲覧数 49,000

データベース掲載教室数 133）

○実績値 情報冊子発行部数 3 号計 7,500 部・web ページ閲覧数 65,000

データベース掲載教室数 137

情報冊子は発行回数および部数を見直し、質の向上およびホームページへのアクセスによる閲覧を推奨するようにした。

【検証方法】

日本語教室および人材育成研修については、参加者・受講者アンケート等により効果を測定するとともに、事業目的「こどもから大人までの切れ目のない地域の日本語教育の支援、総合的な推進」につながっているか、質的な評価も行うこととした。

その方法として、第一に、日本語教室においては、外国人のニーズに合わせた日本語学習機会の創出やアクセス性の向上につながっているかの把握に務めた。また、教室の目的が明確になっているか、目的と合った教室となっているか、学習者が日本語を使って生活しやすくなったか、地域活動への参画の意欲が高まったか等質的な点については、開始前後のインタビューや観察・エピソード等により把握した。第二に、人材育成研修については、支援者のスキルアップのみならず、多文化共生社会への理解・関心につながっているか、また支援に関心のある人の新たな参画など、裾野が広がっているかという点からもアンケート等から把握に努めた。さらに、体制づくりという観点から、日本語教育にかかる関係団体等との連携の状況等について、コーディネーターの活動内容や領域の広がりやつながりの深まりなどの可視化に努め、事業実施前後の変化を把握するようにした。

以上について、主に重点取組の事業について、総合調整会議の場で報告し評価を得た。

また、年度終了にあたり、総合調整会議委員から、本事業の効果に係る以下の4点についてコメントを得た。

- 1 各取組(事業)の定着、広がり、深化
- 2 よこはま日本語学習支援センターの各機能の強化 ((1) 情報提供・相談機能(2) 広報機能(3) ネットワーク機能)
- 3 よこはま日本語センター(仮称)の検討/担い手のネットワークづくり
- 4 その他、「2022年度地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」の取組に対するご意見等

＜委員の声＞

・講座やイベントなど多種多様な実施はもちろん、実施後は振り返り、次回につなげてくイメージが伝わってくる。

・3年目を迎えた2022年度は、継続する事業と更新していく事業がある程度、整理できてきたような印象を受けた。

・引き続き、行政や支援側のバックアップ、既存の日本語教室の支援、フォローアップ、新規開拓も視野にいれた支援があるとありがたい。

・さまざまな立場の方たち向けに様々な講座が開かれていて素晴らしい。これらが同じ立場にある人たちともっと共有できるとよい。

2. その他、令和4年度事業の評価と検証方法

【各取組の指標及び検証方法（定量評価・定性評価）】

【取組⑤ 日本語教育人材に対する研修】

(定量評価) 実施する研修の数・参加人数

今年度目標 研修 17 箇所・参加人数 327 人 (前年度実績: 7 箇所・約 410 人)

今年度実績 15 箇所 263 人 (のべ 434 人)

(定性評価) 参加者満足度 85%以上

(検証方法) アンケートによる評価等

計画した講座についてはほぼ定数どおりの参加者を得ることができた。アンケートによる満足度は、すべて85%以上だった。

【取組⑥ 地域日本語教育の実施】

(定量評価) 実施する日本語教室の数・参加人数

今年度目標 12 箇所・学習者 165 人、講師等 49 人

(前年度実績：9 箇所・学習者約 100 人、講師等 18 人)

今年度実績 20 箇所・学習者 529 人、講師等 65 人

(定性評価) 参加者満足度 85%以上

(検証方法) アンケートによる評価等

ウクライナ避難民向け日本語教室開催等、ニーズに合わせた教室を新設することにより、教室数・受講者数ともに計画を大幅に超える結果となった。アンケートによる満足度は、すべて85%以上だった。

【取組⑧ 地域日本語教育の効果を高めるための取組】

(定量評価) オンラインサロン（支援者向け・学習者向け）の実施回数・参加人数

今年度目標 16 回・136 人（前年度実績：13 回・約 70 人）

今年度実績 12 回・52 人

(定性評価) 参加者満足度 85%以上

(検証方法) アンケートによる評価

支援者向けオンラインサロン開講を見合わせたことにより、目標値を下回った。学習者向けサロンは、日本語学習経験者が企画運営等支援者として参加する側面もあり、外国人の活躍促進につながった。

7 検証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望

(1) 検証を踏まえた課題

3年目にあたる令和4年度は、5つの重点取組のほか、「1各取組(事業)の定着、広がり、深化」「2よこはま日本語学習支援センターの各機能の強化((1)情報提供・相談機能(2)広報機能(3)ネットワーク機能)」「3よこはま日本語サポーター(仮称)の検討/担い手のネットワークづくり」の3つの視点で事業を行った。継続事業はブラッシュアップにつながるよう、また、モデル地域で実施した事業の枠組みを他地域での取組にいかすなど、事業間の連携も考慮に入れた。広報機能強化については、相談件数の増加、webページのアクセス状況等から、ある程度認知されてきたといえる。他方、日本語学習を希望する外国人住民への周知については、チラシを多言語でシンプルなものにする、支援者などから口コミで届くようにするなどの工夫を行っているが、まだ工夫の余地があると考えられる。よこはま日本語サポーター制度については、プロジェクト推進ワーキンググループの議論などを通じて、制度設計の目的やターゲットの明確化などが重要であるとされたため、継続的に検討していくこととした。制度を運用する目標は達成できなかったが、支援者ネットワークについて考える機会となった。

<委員の声>

・(柱1の基盤整備は十分できていると思うが)この取組がどの程度市域全体で受け止められているかが課題。国際交流ラウンジの存在意義を更に高め、地域で(本事業による枠組を)活用していくより他はないと考える。

・日本語や多文化共生のサポートを本当に必要としている人に、どう届けるか、そして、参加してくれた人たちが継続して交流してくれるよう仕組みの構築が重要。

・学ぶ機会を活用できていない方もまだまだ多いと感じるため、どう広報していくかが課題。

・広報や情報提供の際には、横のつながりも含めて、他の組織のことも発信する機会があると実用性が増すのではないかと。

(2) 今後の展望

今年度事業の見直しを踏まえ、各取組のブラッシュアップ等を通じて、事業の実施目標や、アクションプランでの目指す姿「子どもから大人までの切れ目のない地域日本語教育(学習支援)の実現」に一層努めたい。そのために、事業の実施体制の充実、人材育成の観点からの当事業担当スタッフ・関係者・参加者の学びの機会の充実を通じ、外国人住民がいつでもどこでも日本語を学べる、話せる、地域日本語教育の体制づくりを通じた「横浜×日本語×多文化共生」の地域づくりをさらに進めていきたい。

その際の視点として、外国人当事者の声やニーズを取り入れること、巻き込み「一緒につくる・一緒に汗をかく」機会をつくるなど、経験をともにできるような事業等を通じ、担い手を増やし、よりすそ野が広がるような取組を行うと同時に、その質を高めていく。よこはま日本語学習支援センターが、横浜における地域日本語教育の総合的な体制づくりを進める基盤となる拠点としての意識を持ち、団体の情報集約・共有・提供、コーディネート等を通して風通しの良い関係を作り、外国人住民のニーズに対応できる機会の創出を行いたい。

<委員の声>

・(よこはま日本語学習支援センターには)要望を丁寧に聞いて適切な対応をしてくれるホテルのコンシェルジュのような役割が求められているように思う。

・(外国人の参画について)日本語教育となるとハードルは高いが、アシスタント的な立ち位置、ボランティアとして場を支える人として活躍できるような仕組み作りができるとよい。

・(外国人を)助けるというより、彼らが自分でいろいろなことができるようになるためにどういった支援ができるのか考えていきたい。

2. その他、課題と困難な状況への対応方法等

(1) 課題と困難な状況への対応方法

引き続きコロナ禍にあるなかで、当初計画は、オンライン開催を中心に組み立てていたが、感染対策も徐々に緩和され、それに伴う事業の開催形態判断および運営方法について、都度検討や工夫が必要だった。参加者のニーズの多様化に合わせ、オンライン・対面併用での会議や講座の運営も、必要に応じて行い、想定外の時間がかかった。ノウハウの共有やスタッフの応援などで対応した。また、対面活動再開により、移動の時間や資料の準備等、オンラインのみの活動と比べて作業量やかかる時間が増え、想定外の業務量となったが、それぞれの形態の特徴をつかむことができた。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
3-5	情報冊子「にほんごコミュニケーション」の発行
	
3-9-5	2021年度モデル地域活動報告会
	
6-1	企業従業員向け日本語教室
	
6-5	ウクライナ避難民向け日本語学習支援
	

【参考資料一覧】

	取組番号	資料名	NEWS 掲載
1	全体	2022 年度地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業実施報告 (概要版)	○
2	3-5	(3-5) 情報冊子「にほんごコミュニケーション」	○
3	3-9-1	(3-9-1) モデル地域：磯子区ブラッシュアップ講座報告書	○
4	3-9-2	(3-9-2) モデル地域：緑区ブラッシュアップ講座報告書	○
5	3-9-3	(3-9-3) モデル地域：瀬谷区親子イベント報告書	○
6	3-9-5	(3-9-5) 2022 年度モデル地域活動報告会報告書	○
7	5-1	(5-1) 日本語教室運営者等向けの研修報告書	○
8	5-2	(5-2) 入門研修（一般向けコース）報告書	○
9	5-3	(5-3) 入門研修（外国人対象コース）報告書	○
10	5-4	(5-4) ブラッシュアップ講座報告書	○
11	5-5・5-6	(5-5)(5-6) ICT 活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援 講座」（参加編・開催編）報告書	○
12	5-7	(5-7) ICT 活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講 座」（活用編）報告書	○
13	6-1	(6-1) 企業従業者向け日本語教室報告書	○
14	6-2	(6-2) 外国人親子教室報告書	○
15	6-3	(6-3) 初期日本語教室報告書	○
16	6-4	(6-4) ICT 活用日本語教室報告書	○
17	6-5	(6-5) ウクライナ避難民向け日本語ワークショップ報告書	○
18	8-2	(8-2) 学習者向け日本語交流会報告書	○
19	9-1	(9-1) 企業向け異文化間理解講座報告書	○